

市の助言内容と申出者の意見

市の助言		申出者の意見
<b>1 建築物の外観について</b>		
1	当該建築物は1、2階の外壁にはガラスを多く用いることにより、建物内部が外部から感じられる工夫がなされています。カーテンやロールスクリーンなどにより、外部から内部の様子が常時見えなくなることを避け、照明やプランター等を窓近くに配置するなど、事務所ビルの無機質な印象が少しでも和らぐ工夫がなされることを期待します。	窓に面する部分のインテリアは屋外からの見え方にも配慮して検討し、社員の活動の様子や植栽等が外部空間からも感じられるように配慮します。特に1階は断熱性能・遮熱性能の高いガラスを採用し、カーテンなどを設置せず、内部のロビー空間の様子を見えるように計画します。
2	外壁の色彩の選定にあたっては、周囲の建築物との調和に加えて、反射光による影響とシンボルマークの視認性も踏まえて検討を行い、決定するよう努めてください。	外壁の色彩は、現地での塗装サンプルを製作し、つやの有無による自然光の反射率などを確認します。そのうえで周辺の風景との調和とに配慮した計画とします。社名サインなどのシンボルマークは、パースやVRによる検討を行い視認性を確認します。
<b>2 外構・みどりについて</b>		
1	北側隣地が今後開発される可能性を見据え、北側の敷地内通路が裏路地のような印象とならないよう工夫ができないか、検討するよう努めてください。	北側通路には足元灯や街路灯などの照明を複数配置し、夜間も安心して通行できるように配慮します。また、北側角部にはベンチを設置することで、より多くの人々が利用できる居場所を検討します。
2	緑化されたゆとりある歩行者空間をつくるためには、みどりが連続して配置され、植栽帯の擁壁が目立たないことが大切です。例えば、擁壁をベンチ併用のものとするなどし、印象をやわらげるとともに、みどりの連続性が確保されたものにできないか検討してください。	擁壁は圧迫感を与えないよう低くし、ベンチの背もたれを兼用させるしつらいとすることで植栽となじむベンチの作り方を検討します。
3	敷地全体の緑量を確保するためには、葉ばりを考慮した高木を採用することが有効な手段の一つです。当該敷地は植栽環境が厳しいようですが、植栽の選定にあたっては幅を狭めずに検討し、緑量が感じられるような工夫を検討してください。	現地の環境に合わせて高木採用可否の検討を行います。また、植栽量を増やし積極的に緑量を確保して、緑ある景観に配慮します。
<b>3 新さっぽろ駅周辺地区の顔づくりについて</b>		
1	当該敷地は景観誘導区域内であり、新さっぽろ駅周辺地区の顔づくりが期待されています。敷地の角地がどのように作り込みされるかによって印象が大きく変わることから、新さっぽろ駅周辺地区の顔にふさわしい工夫が何かできないか検討されることを期待します。	敷地角部の植栽を増やし、緑ある街区の顔づくりを目指します。駐車場沿いの植栽は敷地内の車の目隠しとし、アイレベルの景観に配慮します。